

令和8～10年度 修立地区まちづくり推進計画 目標



安全 安心 笑顔でつながるまちづくり

これは、令和8年度にリニューアルした、まちづくり推進計画の新しい目標です。この推進計画は、10名の策定委員（自ら応募した現役高校生1人を含む）さんと、約4か月間かけて創り上げたものです。中でも斬新なのは、目標の中に「**Well-being**」という聞き慣れない英語を使っている点です。（とりわけ高校生の策定委員さんが使うことを推してくれました。）



R8～10まちづくり推進計画

そもそも「**Well-being**」とはどういう意味でしょう。

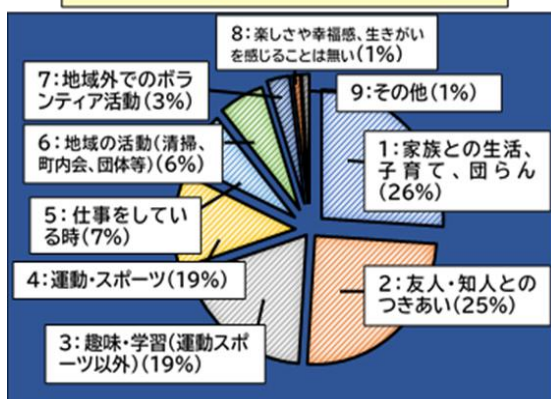
身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。（文部科学省）

慶応大学の前野隆司教授によると、前述のような「**Well-being**」の状態になるためには、次の4つの「因子（構え）」をバランスよく高める必要があるそうです。

- ① やってみよう因子…夢や目標を達成しようと努力する
- ② ありがとう因子…多様な人とつながり感謝する
- ③ 何とかなる！因子…失敗を気にせず、前向き・楽観的にとらえる
- ④ ありのままに因子…他の人に左右されず、マイペースで生きる

そういう観点から、下の「修立地区住みごこちのよいまちづくりアンケート」（R7.1実施）の結果を見てみると、「あ

日々の暮らしの中で、どのようなことに楽しさや幸福感、生きがいを感じますか。



りがとう因子」が関係する「6：地域の活動（6%）」や「7：地域外でのボランティア活動（3%）」の値が若干低いように感じます。

東京科学大学の研究チームの研究は、「継続的な社会参加（町内会や老人クラブ、ボランティア、趣味の会等への参加）が多いほど認知症発症のリスクが低い」という研究成果を発表しています。ひょっとしたら、修立地区の認知症有病率の高さは、公民館も含めたまちづくり協議会の活動やボラン



研究内容 HP

ティアへの参加を増やすことで、一気に低下させることができるかもしれません。

こうしたことをふまえると、今後のまちづくり協議会の活動のポイントは、

住民の皆さん一人一人の「ありがとう因子」をいかにして高めるか

に集約されるのではないかと思います。その意味で今年はことある毎に、「**Well-being 修立**」と、昨年からの合言葉「**人口減から人交増へ**」を唱え続けたいと思っています。修立の皆さん一人一人の「**Well-being**」を高めるために。

令和 8 年度「団体交流研修会」

今年度の「団体交流研修会」は、かつてないほど多彩な研修会になりました。

参加者合計は初めて 100 人を越え、しかも一般募集の参加者や中学生も 20 人弱あり、内容も想いあふれる講演に続き、歌とマリオネットのコラボという、かつてない多彩な組み合わせで構成しました。結果もかつてないほどの高評価をいただき、誠にありがとうございました。

1 日時 令和8年6月27日(土)

研修会:15時~17時 懇親会:17時30分~19時30分

2 場所 白兔会館

3 出席者数 研修会:104 名(町内団体 82、一般 11、中学 8、講師 3)
懇親会: 64 名(町内団体 61、講師3)

4 内容 講演会:15時~16時

講師:福島県相馬市震災語り部 井島 順子 氏
スペシャルコンサート:16時~17時

シンガーソングライター-hacto(ハクト)氏
マリオネット師 福本弘文 氏



映像を交えて当時の様子を語る井島さん。



満員の会場。井島さんの話を真剣に聞き入る参加者。



会場入り口には、井島さんが持参された、当時の新聞記事などの貴重な資料を展示。



震災以降、毎月被災地に通う hecto さんの歌声には、説得力がある。



「麒麟は平和の象徴」と解説を加えながらあやつる福本さん。



歌とマリオネットのコラボ。阿吽の呼吸でかけ合うプロの技を、間近で見られるこの幸運に感謝。

< 感想 > 一部抜粋

- 避難先の生活空間を工夫することで相互につながり、見守る体制ができ、孤立死がなかったとのこと。知った顔があることが安心につながるという話が印象に残りました。井島さんの明るくパワフルな人柄と hacto さんの覚悟にグッときました。
- 井島さんのお話を直接お伺いできて、本当に良かったです。これからの地域防災、家族への指針としたいと思います。
- 時が経っても語り継ぎ、支援の気持ちを忘れないようにしなければと心の底から感じるほど、深く心に残る講演でした。
- ハクトさんの歌、とても心に沁みました。福本さんの名人芸、素晴らしい！そして、東中の皆さんありがとう。
- 「ピンチをチャンスに」とか「負けないで」とか言うけれど、その根底に流れるのは、“なかま”や“同士”が必要ということだと思う。町内でも日々の顔見知り、顔なじみ、友達、そして信頼関係をつくることが大切と感じている。
- 希望を捨ててはいけない。生きてたら何とかなる！一人では何もできないから、みんなで力を合わせて協力することで未来はつくれる」ということを学んだ。(中学生)

< アンケート結果 >

大変よかった	74%
よかった	26%
あまりよくなかった	0%
よくなかった	0%

今回の研修会の実施にあたっては、まち協の「安全安心なまちづくりグループ」の皆さんが協働して運営してくださいました。本当にありがとうございました。感謝！感謝！。